9月1日は「防災の日」。大正12年（1923年）のこの日に発生した「関東大震災」を教訓に、防災を見直すために定められました。記憶に新しいのは、「阪神・淡路大震災」、「鳥取県西部地震」、そして今年7月の「中国・九州北部豪雨」。いざというとき、大切な命や財産を災害から守るためには、日ごろの危機管理が大切です。

現代社会は高齢化社会の到来、日中若者が町にいない、高齢者、子どもなどの弱者を狙った犯罪の増加など、かつて私たちが安心して暮らせていたコミュニティーが崩れてきています。

このような今こそ、災害、犯罪に備えた顔の見える地域づくりを日常的に進める必要があります。

平成7年の阪神・淡路大震災では、救助された3万5千人のうち2万7千人が、家族や近隣の人たちによって救出されたといわれています。

人と人との助け合いは、救助だけでなく、火災が発生したときの初期活動、また、被災後の生活でも重要になります。いざというとき、こうした「共助」の力を発揮するためには、日ごろから地域の住民が主体となった防災活動を行い、地域の防災力を高めておくことが重要です。

地域の防災力を高めよう！

地域の防災力向上をお手伝いします

6月から8月にかけて、各地域振興協議会に防災コーディネーターが採用されました。

自主防災組織が効率的に機能するよう調整したり、とりまとめをしたりします。

東西町地域振興協議会
安藤　照三さん

天津地域振興協議会
定森明日香さん

大国地域振興協議会
瀬尾　睦夫さん

法勝寺地区
地域振興協議会
増田　厚子さん

南さいはく
地域振興協議会
松原　信夫さん

あいみ手間山
地域振興協議会
冨永結花里さん

あいみ富有の里
地域振興協議会
岡田　好弘さん